

石川県立美術館だより

平成19年10月1日発行 第288号

古九谷と石川の工芸Ⅱ

会場:石川県立歴史博物館 第2特別展示室

10月16日(火)～11月11日(日) 11月14日(水)～11月30日(金)

(古九谷と石川の工芸Ⅰは10月14日(日)まで開催しています。)



色絵亀甲菊流水図平鉢 古九谷

九月三日から改装工事のため休館しましたので、隣の石川県立歴史博物館第二特別展示室で開催するコレクション展示の二回目です。

十七世紀中頃、古九谷は、日本最初の色絵磁器として誕生しました。そして、その質の高い裝飾性から、近世を代表するやきものとしてきわめて高い評価を受けています。古九谷の魅力は、なんととても文様意匠の重厚さ、格調の高さにあります。文様は力強い筆致でダイナミックに描かれ、色彩は深い緑・黄・紫などの絵具によって、器面全体に塗り込まれています。今回はコレクションの中から、「色絵亀甲菊流水図平鉢」、「青手椿図平鉢」、「青手葡萄図平鉢」など古九谷九点を展示します。

また、同時に、「石川の工芸」の中から、陶芸では中村翠恒作「鷲二態」と北出不二雄作「青釉寂靜台皿」を、漆芸では藤井観文作「片切沈金彫栗鼠小箆筒」、新村撰吉作「梅花文蒔絵管」を、金工は加賀象嵌の高橋介州作「絹の道伏香炉」と金岡宗幸作「砂張水指」、染織では前期、後期に分けて毎田仁郎作友禅訪問着「つどい」と毎田健治作「爽風」、初代由水十久作「春秋野外遊楽図」、二代由水十久作友禅訪問着「むべの花」を、木工は川北浩一作「櫻造盛鉢」、人形では前期は下口宗美作木彫加彩人形「つつ井筒」を、後期は斎藤悦子作「いずみ」など約二十四点展示紹介します。

会期のうち十月十六日～十一月十一日は歴史博物館秋季特別展「石川のお宝史」開催にともない、入館料一般六五〇円(団体五二〇円)、大学生五〇〇円(団体四〇〇円)が必要です。

十一月十四日～十一月三十日は歴史博物館入館料一般二五〇円(団体二〇〇円)、大学生二〇〇円(団体一六〇円)が必要です。

(高校生以下はともに無料です。)

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

「百工比照について」 講師 当館館長 嶋崎 丞



大成されたものが「尊經閣文庫」といえるのではないかと思います。最近マスコミや一部県民の皆さんから「尊經閣文庫」の金沢城への返還運動がでてきているようですが、その方たちも「尊經閣文庫」の中身について正直申し上げてご存じではないのではなからうかと思われまので、本日はその「尊經閣文庫」のなかの「百工比照」についてお話しいたします。

「百工比照」については新聞や雑誌、テレビなどで名前は紹介されていますが、実際にご覧になっている方は、意外と少ないのではないかと思います。「百工比照」についてのご認識が間違った解釈の方が多いのではないかと思いますので、私の「百工比照」との長いつきあいの中で感ずることを中心にお話ししまして、ご鑑賞の参考になさっていただければと思います。

ご存じのように五代藩主前田綱紀は、「尊經閣文庫」という今で言う図書館を大成した藩主です。この「尊經閣文庫」という名称から一般的には図書館をイメージするんですが、この「百工比照」もそのなかに含まれています。ですから、文庫という名称からくる図書・文書・典籍のみならず、幅広い意味での綱紀の考える世界が集

「百工比照」とは工芸百般を比較対照するという意味で、名称は綱紀が自ら名付けたことが資料的にも裏付けされています。祖父の三代藩主利常は文化大名としてよく知られ、世の中に二つとない古美術の名品を集め、それを使って茶会を開き、今日のには工芸工房である加賀藩の御細工所をスタートさせようという構想を持って様々な仕事を進めた大名です。利常の考え方には

対幕府、あるいは対公家・朝廷に対する加賀藩の存在意義と申しましょうか、世の中に認識してもらおうというスケールの大きな想いのなかで、加賀藩の文化を交流振興しようという意図があったのではないかと思います。利常の長男が四代藩主光高ですが、彼は三十一歳で亡くなり、その時に長男の綱紀が三歳でした。そのため小松城に隠居をしていた利常のバックアップを受けて育っていますから、祖父利常の影響は

当然ですが、綱紀の正室は、会津藩主の保科正之の女です。保科正之は三代將軍家光の異母弟で、江戸幕府の中でも重要な存在であり大変な学者でもあります。三代利常は、藩政を含めて家庭教師の役割をこの保科正之に託したといっても過言ではないでしょう。

江戸時代中期の武士の精神生活は儒教を根底とした儒学が中心です。水戸藩の徳川光圀綱紀の叔父は朱舜水を召し抱え朱子学を学び水戸学を確立していますが、このような環境の中で育った綱紀は儒学を愛好し、徳川幕府の論語・中庸などの講義に参加して、常に賞を取って幕府からも信任の篤い大名でした。中国の儒学を研究することで、北宋の徽宗皇帝に関心を持ちそのコレクションで日本に伝来しているものはほとんど今日の国宝や重文です。三代利常の生き方もさることながら、徽宗皇帝の生き方を研究者として求めた気がいたします。

またこの時代は博物主義が流行します。豊かな経済力を持ち、またそうした面に関心のある大名の中で綱紀はトップバッターの一人に挙げることが出来ると思われまします。綱紀自筆の「丙寅旅中雜記」と題する記録が残されています。貞享三年（一六八五）五月に金沢へ帰る参勤交代の道中で見聞した様々なことを記した十四日間の記録で、道中や本陣の庭に生えていた植物や樹木に関する記事を中心に魚や動物に関することも記され、植物や樹木の葉を採取し、葉拓にして葉の形を写し取り、そこに説明が付属

します。さらに「桑華字苑・桑華書志」という綱紀の雑記帳が残っていますが、ここにも博物学的視点がうかがえます。またオランダの医学や植物学に関する書籍を注文していますが、それを入手したのが天和二年（一六八二）です。「百工比照」の和紙の収集については延宝六年（一六七八）に藩の改作所に記録があり、この年以前十年、以後三十年にわたって収集されたと考えられます。この様に綱紀は植物の分類整理、コレクションに大変関心を持っていたということが具体的に見えてきます。こうした博物趣味を美術工芸に応用し、集大成したものが「百工比照」のコレクションということができます。御細工所の職人の仕事・技術・材料の見本を集大成したデータベース、小松葎島書院の実物見本は寛永時代のもので、それから綱紀が亡くなる元禄までの七・八十年の日本における工芸の見本、図書文書典籍に深い関心がありましたので、和紙を徹底して集めています。題牋用の付箋を集め、本の装丁見本の木型まで作っているところからも、尊經閣文庫に打ち込む姿をみることが出来ます。これがデータベースとなつて、今日の石川県における伝統工芸の根本資料となっているわけで、中・長期的な工芸の展開に基本的役割を果たすことに結びついており、やはり綱紀は先を見越したすばらしい仕事を残してくれた藩主であつたことを改めて感じます。（特別陳列「百工比照」にあわせて、当館ホールで開催した講演会の内容を当館の責任で要約したものです。）

今後の当館行事について

これまで当館で行ってきた講座や映画会など、休館中の当館行事は主に県立生涯学習センターで行うこととなります。十二月までは月に一度ですが、二月以降は毎週1回のペースで行うこととなります。今号では十月の行事をご紹介します。

■映画会

- 日時／10月14日(日)午後1時30分
- 会場／県立生涯学習センター(3階35号室)
- 「甦る文化財 表装の技術」(48分)
- 「文化財を守る人たち」(44分)

県立生涯学習センターのご案内

休館中に当館主催行事を行う県立生涯学習センターをご案内します。

所在地

- ◆金沢市広坂2丁目1番1号石川県広坂庁舎1号館
 - ・JR金沢駅から北陸鉄道バスに乘車、香林坊下車徒歩4分。
 - ・JR金沢駅から車で約10分
- ※下の地図を参照下さい。

連絡先

- ・TEL 076(223)9570
- ・FAX 076(223)95805

兼六園周辺文化の森 ミュージアム ウィーク

昨年から始まったミュージアムウィーク。十月一日から八日の日程で今年も盛大に催されます。美術館は休館しますが、兼六園周辺の施設ではいろいろなイベントが予定されています。

■文化の森講演会

- 開始時刻／午後2時
- 会場／石川県立歴史博物館
- 10月6日(土)
「天皇と中世文化」
講師／脇田晴子(石川県立歴史博物館長)
- 10月8日(月・祝)
「十九谷とは」
講師／嶋崎 丞(石川県立美術館館長)

入場無料

■シューベルトと能の出会い

- 10月8日(月・祝) 午後3時開演
- 会場／石川県立能楽堂
- 内容／シューベルト弦楽四重奏曲第14番 能「巴」シテ佐野由於ほか
- 料金 3,500円(当日4,000円)

■ミュージアム・ガーデン

緑に囲まれた公園に野外生け花アートを中心に、オープンカフェ、ガーデンニングショップが登場。10月6日(土)～8日(月・祝) 会場／本多の森公園芝生広場

■文化の森フォトコンテスト2007

- 10月2日(火)～8日(月・祝)
- 会場：石川県立歴史博物館石引分室
(旧第九師団司令部)

■文化の森クイズ&スタンプラリー

- 「クイズに答えてプレゼントをゲット」
 - 会期／10月1日～31日
 - 会場／文化の森各施設
 - ・金沢城公園
 - ・石川県立歴史博物館
 - ・石川県立能楽堂
 - ・石川県立伝統産業工芸館
 - ・藩老本多蔵品館
 - ・金沢能楽美術館
 - ・金沢市立中村記念美術館
 - ・金沢くらしの博物館
 - ・金沢ふるさと偉人館
 - ・前田土佐守家資料館
- 応募方法／各施設備え付けの用紙で応募

県立美術館周辺地図





あお て ぶどう ず ひら ばち
青手葡萄図平鉢

古九谷

江戸時代 17世紀
 口径43.0 底径22.1 高10.2cm



器形は腰の部分に段を付けたいわゆる二段鉢様式で、このタイプの形態はほかに「青手海濱家屋図平鉢」や「青手海濱家屋図平鉢」など古九谷青手の作品に多くみられます。彩色は緑と黄の二色のみですが、葡萄の葉や実の一部を白抜きとすることでとても印象的な仕上がりとなっています。裏面は、黄で塗りつぶしており、そこに菊唐草を豪快に描いています。高台内は緑の絵の具が完全に溶けておらず、小砂が付着しており、中央には二重角の「福」字銘を記しています。

大ぶりの平鉢で、見込みの上方より垂れ下がるように葡萄の蔓と葉、実を描いています。地文には撫子風の大柄な花文を大胆に配しており、装飾的效果を高めています。こうした撫子風の花文は、天和二年（二六八二）火災に遭遇した旧大聖寺藩江戸上屋敷（現在の東京大学構内）より出土した色絵陶片と同一の文様であり、注目されるものです。縁には菱形木目状の水文をめぐらせており、力強さを感じさせます。

参加者募集！

第38回文化財現地見学旅行

～京都・宝塚の美術館・博物館を訪ねて～
 永徳・等伯と近代日本画の巨匠たち

期 日：11月17日(土)～18日(日)

1泊2日 宿泊は京都市

参加費：23,000円(友の会会員以外は24,000円)

募集定員：40名(対象は原則として成人)

見学予定地：堂本印象美術館・相国寺承天閣美術館・
 細見美術館・京都国立博物館・鉄斎美術館

出発場所：JR金沢駅西口バスターミナル

時刻：午前7時

到着場所：JR金沢駅西口バスターミナル

時刻：午後7時(予定)

※改修工事のため休館中につき、出発・到着場所はJR金沢駅西口バスターミナルのみとさせていただきます。
 マイカーでお越しの方は、駐車場は各自でご手配下さい。

- ◆宿泊はシングルルームのみとなります。部屋割りは、こちらに一任させていただきます。
- ◆バスの座席は抽選番号順とさせていただきます。相席を希望される方は、当日お話し合いの上、交替していただきますようお願いいたします。
- ◆食事については、旅行代金に2回の昼食代は含まれますが、夕食は各自でお願いいたします。
- ◆二日目の朝食は、無料サービスの軽食(パン、サラダ、飲物)ですので、あらかじめご了承下さい。

お申し込みの方法

☆往復はがき下記事項をご記入し、ご応募下さい。参加証を発行します。応募多数の場合は抽選を行い、参加者を決定させていただきます。

- ①往復はがき裏面に、文化財現地見学参加希望と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号・電話番号をお書き下さい。
- ②返信はがきの表面には、返信先(住所・氏名)をお書き下さい。
- ③返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。応募結果を印刷して返送いたします。

◇応募先：〒920-0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館 文化財現地見学旅行あて

◇応募締切：平成19年10月15日(月)必着

※応募希望者1名につき、往復はがき1通でご応募下さい。お一人でも何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備のものなどは無効となりますのでご注意ください。

※応募結果は、締切日の翌日に発送いたします。この返信は再発行いたしません。

ご注意

☆当選された方は、10月31日(水)までに必ず参加費をお支払い下さい。引き替えに参加証をお渡ししますので、旅行当日は参加証をお持ち下さい。

☆抽選もれの方には、キャンセル待ち番号が書かれたハガキを返送します。キャンセルがあった場合は、11月12日(月)までにお知らせいたします。

☆当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は、必ず当館へご連絡下さい。その後当館よりキャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りいたします。

☆2日間にわたる長時間のバス移動があり、また行楽のシーズンでもあり、予定がずれ込む可能性があります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合に自信のない方は、参加をご遠慮下さい。